



2026年3月期 第2四半期(中間期)決算短信(日本基準)(連結)

2025年11月14日

上場会社名 株式会社 ピエトロ

上場取引所 東

コード番号 2818 URL <https://www.pietro.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 高橋 泰行

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 経営企画室長 (氏名) 池田 章朗

TEL 092-724-4927

半期報告書提出予定日 2025年11月14日

配当支払開始予定日 —

決算補足説明資料作成の有無 : 有

決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2026年3月期第2四半期(中間期)の連結業績(2025年4月1日～2025年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年中間期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年3月期中間期	6,010	9.6	67	30.8	30	—	44	—
2025年3月期中間期	5,484	8.9	97	47.9	94	49.8	46	37.3

(注) 包括利益 2026年3月期中間期 52百万円 (—%) 2025年3月期中間期 50百万円 (43.5%)

	1株当たり中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり中間純利益
	円 銭	円 銭
2026年3月期中間期	6.51	—
2025年3月期中間期	6.80	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年3月期中間期	13,916	6,176	44.4
2025年3月期	10,271	6,358	61.9

(参考) 自己資本 2026年3月期中間期 6,176百万円 2025年3月期 6,358百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年3月期	—	0.00	—	24.00	24.00
2026年3月期	—	0.00			
2026年3月期(予想)			—	24.00	24.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2026年 3月期の連結業績予想(2025年 4月 1日～2026年 3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	11,786	5.8	350	97.5	200	24.7	60	3.8	8.69

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

(1) 当中間期における連結範囲の重要な変更 : 無

新規 — 社 (社名) 、 除外 — 社 (社名)

(2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2026年3月期中間期	7,062,230 株	2025年3月期	7,062,230 株
期末自己株式数	2026年3月期中間期	134,282 株	2025年3月期	155,618 株
期中平均株式数 (中間期)	2026年3月期中間期	6,912,708 株	2025年3月期中間期	6,891,914 株

第2四半期 (中間期) 決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述等は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料の4ページ「1. 当中間決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(中間決算説明会及び中間決算補足説明資料の入手方法)

当社は、2025年11月14日 (金) にアナリスト向け中間決算説明会を開催する予定です。

中間決算補足説明資料については、説明会当日に会場にて配布及び説明会終了後に当社HPに掲載いたします。

○添付資料の目次

1. 当中間決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 中間連結貸借対照表	5
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	7
中間連結損益計算書	7
中間連結包括利益計算書	7
(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(中間連結損益計算書に関する注記)	9
(中間連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	9
(セグメント情報等の注記)	9
(重要な後発事象)	10

1. 当中間決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当中間連結会計期間（2025年4月1日から2025年9月30日）におけるわが国経済は、雇用や所得環境の改善、インバウンド需要の増加等により、緩やかな回復基調で推移する一方、米国の通商政策の影響、物価高の長期化等により、景気の先行きは依然として不透明な状況が続いています。

食品業界では原材料費の高騰等に伴う様々な商品の値上げ拡大による影響が大きく、消費者の生活防衛意識は高まり続ける一方で、外食業界におきましては、人流の回復等による販売面での堅調さは見られますが、原材料やエネルギー価格の高騰、労働力不足による人件費上昇等、引き続き経営環境は厳しいものとなっています。

このような状況下において、当社グループは、「ファンを大切にする」という理念のもと、ファンベース経営のさらなる強化を行うとともに、商品事業、店舗事業それぞれが持つ強みを活かし、シナジー効果を最大限に発揮した施策を行ってまいりました。

売上面では、商品事業は、エリア戦略とファンベースを軸に、ピエトロブランドの訴求を継続するとともに、新規カテゴリーの育成、中長期的な成長戦略としてBtoB事業でもあるデリカ・フードサービス事業、海外事業の強化に取り組みました。また、店舗事業は、さらなるホスピタリティ強化による顧客満足向上のための施策を行ったこと等により、既存店、新店ともに好調に推移いたしました。

利益面では、商品事業、店舗事業ともに売上は好調だったものの、原材料価格の高騰や人件費の増加、不採算店舗等の閉店を決定したことによる閉店費用の計上、成長事業の育成費用増等がありました。

また、営業外費用として、4月に新工場取得のための新規借入を行ったことによるアレンジメントフィー49百万円、新規借入による支払利息49百万円の計上を行った他、特別利益として既存2工場の売却に伴う固定資産売却益1億94百万円、特別損失として既存1工場の売却決定に伴う減損損失1億66百万円を計上いたしました。

以上の結果、当中間連結会計期間の売上高は60億10百万円（前年同期比9.6%増）、営業利益は67百万円（前年同期比30.8%減）、経常損失は30百万円（前年同期は94百万円の利益）、親会社株主に帰属する中間純損失は44百万円（前年同期は46百万円の利益）となりました。

セグメント別の経営成績は次のとおりです。

①商品事業

・ドレッシングカテゴリー

ユーザーが感じているサラダの課題を解決する『マジカルサラダ』企画を引き続き行い、ブランド認知向上を図りました。定番の「ピエトロドレッシング 和風しょうゆ」、「ピエトロドレッシング 焙煎香りごま」をはじめ、春夏限定の「ピエトロドレッシング うめ」、プレミアムラインの「ピエトロドレッシング プレミアムフレンチ」、「【ピエトロ×TANITA】ドレッシング レモン&ナッツ」が好調に推移した他、トッピング商品のフライドオニオン「PATFUTTE（パットフッテ）」シリーズは、引き続き、レストランのテーブルで自由にお試しいただける“テーブルマーケティング”を強化した結果、順調に売上を伸ばしました。

以上の結果、ドレッシングカテゴリー全体では前年同期を上回る売上となりました。

・パスタカテゴリー

ボトル入りパスタソース「おうちパスタシリーズ」では、世界中で愛されるキャラクター「ムーミン」との数量限定コラボパッケージによる拡販が奏功し、順調に売上を伸ばしました。

“あえるだけ”で本格的な一品ができてあがるトッピング付きパスタソースとして、2024年3月に発売した「ピエトロ あえるだけパスタソースシリーズ」は調理の手軽さが好評を得て、大きく売上を伸ばしました。

また、レトルトパスタソース「洋麺屋ピエトロ」では、人気の「絶望スパゲティ」に加え、定番の「お肉好きのあなたのためのボロネーゼ」「なすとひき肉の辛味スパゲティ」が好調に推移いたしました。

イタリアのパスタブランド「AGNESI」は“ピエトロレストランで使用するプレミアムパスタ麺”として業務用、家庭用のパスタを販売するとともに、「AGNESI」の麺を使用した冷凍パスタが好調に推移いたしました。

以上の結果、パスタカテゴリー全体では前年同期の売上を上回りました。

・冷凍食品カテゴリー

配荷店舗の拡大を目指すとともに、EC市場での認知拡大を図ってまいりました。特に、レストランクオリティのアルデンテ食感を実現した冷凍パスタを中心に、プレミアム価格帯冷凍食品としてのブランド確立に向けた拡販強化を行い、「〔冷凍パスタ〕洋麺屋ピエトロ 糸ひきモッツァレラチーズのトマトソース」等の定番商品が売上を伸ばすとともに、3月に発売した「〔冷凍パスタ〕洋麺屋ピエトロ 青じそ香る梅と蒸し鶏の和風スパゲティ」「〔冷凍パスタ〕洋麺屋ピエトロ 海老とオリーブのトマトクリームソース」も堅調に推移いたしました。

以上の結果、冷凍食品カテゴリー全体では前年同期の売上を上回りました。

・スープカテゴリー

素材や調理法にこだわった「PIETRO A DAY」ブランドとして、季節の国産野菜を使用したスープ等が好調に推移いたしました。また直販ショップでの販売から自社EC、大手ECモール、ライフスタイルショップでの販売等販売チャネルの拡大を行ったことに加え、カジュアルギフトやブライダル関連ギフト市場への開拓を行ったこと等によりスープカテゴリー全体で前年同期の売上を上回りました。

・中長期的成長カテゴリー

BtoB事業であるデリカ・フードサービス事業は、レストランクオリティの商品と調理オペレーションノウハウをホテル業界や外食チェーン等に展開し、着実に売上を伸ばしました。また、海外事業では、北米、アジア圏に注力し、北米では海外子会社での大手食品卸、小売への配荷拡大、アジア圏へは冷凍食品、パスタソース等の輸出で拡販強化を行いました。

利益面では、効率的な販促活動は行ったものの、原材料価格の予想以上の高騰や物流費の高騰、海外子会社における拡販費用の増等がありました。

この結果、セグメント売上高は35億7百万円（前年同期比5.9%増）、セグメント利益は7億87百万円（前年同期比1.1%減）となりました。

②店舗事業

レストラン店舗では、「原点を大切にするお店作り」を目指すとともに、味、雰囲気、サービスの総合点を高め続けるための人材育成投資を継続し、さらなるお客様満足度向上、店舗スタッフ満足度向上を図ってまいりました。メニュー施策では、季節限定メニューの強化や一部ランチメニューの改定を行うとともに、継続的な原材料価格の高騰への対応及びお客様にさらに満足していただける付加価値の高いメニューの提供を目指し、値上げを実施いたしました。これらの施策の結果、顧客単価、来客数ともに前年同期を上回り、既存店、新店ともに好調に売上を伸ばしました。

PIETRO A DAY ブランドのスープを中心とした直販店舗では、商品の美味しさやこだわりをお客様に直接伝えるため、スープの試飲を積極的に行い、認知拡大に注力いたしました。

利益面におきましては、レストラン店舗の既存店、新店ともに売上は好調に推移しましたが、原材料価格や人件費等の上昇があったことに加え、不採算店等の閉店の決定を行ったことによる閉店費用の計上もありました。

この結果、セグメント売上高は24億13百万円（前年同期比15.5%増）、セグメント利益は46百万円（前年同期比5.0%減）となりました。

店舗の新規出店、リニューアルにつきましては以下のとおりです。

出店・リニューアル時期	店舗名
2025年4月	ピエトロ イオンモール名取店（宮城県）
2025年6月 ※	ピエトロ 次郎丸店（福岡県）
2025年6月 ※	ピエトロ 永犬丸店（福岡県）

※についてはリニューアル店舗となります。

③その他（本社ビル等の賃貸）事業

その他（本社ビルの賃貸等）事業におきましては、売上高は89百万円（前年同期比6.0%増）セグメント利益は33百万円（前年同期比0.3%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当中間連結会計期間末の資産につきましては、前連結会計年度末に比べ36億44百万円増加し139億16百万円となりました。これは主に新工場建設における借入等により現金及び預金が20億67百万円、新工場用設備の取得により建設仮勘定が20億79百万円増加した一方、新工場建設に向けた既存工場の売却により建物及び構築物が3億80百万円、土地が2億42百万円減少したこと等によるものであります。

負債につきましては、前連結会計年度末に比べ38億26百万円増加し77億39百万円となりました。これは新工場建設に伴う長期借入金が30億円、短期借入金が7億27百万円、未払法人税等が87百万円増加したこと等によるものであります。

純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ1億81百万円減少し61億76百万円となりました。これは譲渡制限付株式報酬制度導入に伴う自己株式の処分が36百万円増加した一方、前期決算の剰余金の配当1億65百万円及び親会社株主に帰属する中間純損失44百万円の計上によるものであります。

キャッシュ・フローの状況

単位：百万円

	前中間 連結会計期間	当中間 連結会計期間	差額
営業活動によるキャッシュ・フロー	160	288	128
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,215	△1,700	△485
財務活動によるキャッシュ・フロー	△259	3,468	3,728
現金及び現金同等物に係る換算差額	19	△12	△31
現金及び現金同等物の増減額	△1,295	2,044	3,340
現金及び現金同等物の期末残高	1,271	3,221	1,949

営業活動によるキャッシュ・フローは、2億88百万円の収入（前年同期は1億60百万円の収入）となりました。税金等調整前中間純損失が2百万円であり、減価償却費2億26百万円、減損損失1億66百万円、固定資産売却益1億94百万円の計上があったことと、仕入債務が66百万円、棚卸資産が54百万円、未払金が30百万円、それぞれ増加したこと等によるものであります。

投資活動によるキャッシュ・フローは、17億円の支出（前年同期は12億15百万円の支出）となりました。有形固定資産の取得（新工場用設備含む）による支出23億76百万円、敷金及び保証金の差入による支出15百万円があった一方、有形固定資産の売却（既存工場2工場）による収入7億16百万円があったこと等によるものです。

財務活動によるキャッシュ・フローは、34億68百万円の収入（前年同期は2億59百万円の支出）となりました。新工場建設に伴う長期借入金による収入30億円、短期借入金による収入7億27百万円があった一方、支払利息による支出49百万円、配当金の支払額1億65百万円がそれぞれあったこと等によるものです。

以上の結果、当中間連結会計期間末における現金及び現金同等物の残高は、32億21百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当中間連結会計期間においては、売上高は前年同期を上回るものの、予想以上の原材料高騰の影響等もあり、利益が大きく前年同期を下回っております。2026年3月期の通期連結業績予想につきましては、2025年5月15日に公表した数値を据え置いておりますが、当社グループを取り巻く環境や市場動向等に不確定な要素が多く、現在精査中であるため、今後、業績予想の修正が必要となった場合には、速やかに公表いたします。

2. 中間連結財務諸表及び主な注記

(1) 中間連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当中間連結会計期間 (2025年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,122,616	3,190,366
預け金	54,394	31,380
売掛金	1,519,896	1,527,992
商品及び製品	252,887	260,185
仕掛品	12,499	14,066
原材料及び貯蔵品	157,058	201,000
その他	155,993	138,794
貸倒引当金	△6	△17
流動資産合計	3,275,339	5,363,767
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	2,489,359	2,109,091
土地	3,064,878	2,822,093
建設仮勘定	102,700	2,182,152
その他（純額）	609,514	659,766
有形固定資産合計	6,266,453	7,773,104
無形固定資産	59,658	55,668
投資その他の資産		
敷金及び保証金	446,640	454,806
その他	242,877	288,310
貸倒引当金	△19,218	△19,223
投資その他の資産合計	670,299	723,893
固定資産合計	6,996,410	8,552,666
資産合計	10,271,750	13,916,434

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当中間連結会計期間 (2025年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	590,644	656,649
短期借入金	1,350,000	2,077,000
1年内返済予定の長期借入金	16,667	—
未払金	579,007	616,519
未払法人税等	25,903	113,239
契約負債	30,207	33,623
賞与引当金	78,986	78,614
その他	464,835	386,404
流動負債合計	3,136,252	3,962,051
固定負債		
長期借入金	—	3,000,000
リース債務	97,502	77,691
長期未払金	173,887	170,803
退職給付に係る負債	194,133	194,433
資産除去債務	189,388	212,347
長期預り敷金	122,386	122,539
固定負債合計	777,299	3,777,816
負債合計	3,913,551	7,739,867
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,719,897	1,719,897
資本剰余金	1,759,623	1,760,071
利益剰余金	3,085,394	2,874,654
自己株式	△266,597	△230,048
株主資本合計	6,298,318	6,124,575
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	5,273	7,143
為替換算調整勘定	54,605	44,848
その他の包括利益累計額合計	59,879	51,991
純資産合計	6,358,198	6,176,566
負債純資産合計	10,271,750	13,916,434

(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書
(中間連結損益計算書)

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
売上高	5,484,475	6,010,887
売上原価	2,642,376	2,955,748
売上総利益	2,842,098	3,055,139
販売費及び一般管理費	2,744,746	2,987,740
営業利益	97,351	67,399
営業外収益		
受取利息	242	2,731
受取配当金	212	308
為替差益	2,271	—
その他	1,008	1,423
営業外収益合計	3,734	4,463
営業外費用		
支払利息	4,262	49,889
シンジケートローン手数料	1,258	49,844
為替差損	—	1,745
その他	1,419	505
営業外費用合計	6,940	101,986
経常利益又は経常損失(△)	94,145	△30,123
特別利益		
固定資産売却益	18,555	194,522
特別利益合計	18,555	194,522
特別損失		
固定資産除却損	1,159	64
減損損失	—	166,853
特別損失合計	1,159	166,918
税金等調整前中間純利益又は税金等調整前中間純損失(△)	111,540	△2,519
法人税、住民税及び事業税	72,666	83,686
過年度法人税等戻入額	△19,689	—
法人税等調整額	11,708	△41,224
法人税等合計	64,686	42,462
中間純利益又は中間純損失(△)	46,854	△44,981
親会社株主に帰属する中間純利益又は親会社株主に帰属する中間純損失(△)	46,854	△44,981

(中間連結包括利益計算書)

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
中間純利益又は中間純損失(△)	46,854	△44,981
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△1,263	1,869
為替換算調整勘定	5,405	△9,757
その他の包括利益合計	4,141	△7,888
中間包括利益	50,996	△52,870
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	50,996	△52,870

(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益又は税金等調整前中間純損失(△)	111,540	△2,519
減価償却費	229,385	226,879
減損損失	—	166,853
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△55	15
賞与引当金の増減額(△は減少)	9,071	△371
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	14,640	300
株式報酬費用	16,816	16,819
固定資産売却損益(△は益)	△18,137	△194,522
固定資産除却損	1,159	64
受取利息及び受取配当金	△454	△3,039
支払利息	4,262	49,889
売上債権の増減額(△は増加)	155,524	△9,163
棚卸資産の増減額(△は増加)	△34,422	△54,687
仕入債務の増減額(△は減少)	△53,407	66,212
未払金の増減額(△は減少)	△172,242	30,047
未払又は未収消費税等の増減額	△18,399	△19,113
その他	20,715	△18,771
小計	265,997	254,893
法人税等の支払額	△106,286	△8,478
法人税等の還付額	538	42,156
営業活動によるキャッシュ・フロー	160,250	288,571
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△1,195,832	△2,376,173
有形固定資産の売却による収入	21,405	716,674
無形固定資産の取得による支出	△16,313	△18,137
敷金及び保証金の回収による収入	—	183
敷金及び保証金の差入による支出	△20,365	△15,963
貸付金の回収による収入	4,487	3,821
長期前払費用の取得による支出	△13,477	△14,177
長期預り金の返還による支出	△1,305	△3,308
長期預り金の受入による収入	5,586	3,462
利息及び配当金の受取額	469	3,039
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,215,343	△1,700,581
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	—	727,000
長期借入れによる収入	—	3,000,000
長期借入金の返済による支出	△66,667	△16,667
リース債務の返済による支出	△24,234	△27,056
配当金の支払額	△164,680	△165,264
利息の支払額	△4,270	△49,247
財務活動によるキャッシュ・フロー	△259,852	3,468,765
現金及び現金同等物に係る換算差額	19,389	△12,020
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△1,295,556	2,044,735
現金及び現金同等物の期首残高	2,567,544	1,177,010
現金及び現金同等物の中間期末残高	1,271,987	3,221,746

(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(中間連結損益計算書に関する注記)

※1 販売費及び一般管理費のうち、主要な費目及び金額は、以下のとおりであります。

	前中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
給与手当	1,009,691千円	1,114,988千円
賞与引当金繰入額	61,972	64,065
退職給付費用	25,579	17,093

(中間連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

※1 現金及び現金同等物の中間期末残高と中間連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
現金及び預金勘定	1,229,500千円	3,190,366千円
預け金勘定	42,487	31,380
現金及び現金同等物	1,271,987	3,221,746

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前中間連結会計期間(自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	中間連結損益 計算書計上額 (注)2
	商品事業	店舗事業	その他 (本社ビルの賃 貸等)事業	計		
売上高						
顧客との契約から生 じる収益	3,311,281	2,089,156	923	5,401,361	—	5,401,361
その他の収益	—	—	83,113	83,113	—	83,113
(1) 外部顧客への売上高	3,311,281	2,089,156	84,037	5,484,475	—	5,484,475
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	3,311,281	2,089,156	84,037	5,484,475	—	5,484,475
セグメント利益	795,804	48,641	34,012	878,458	△781,106	97,351

(注) 1 セグメント利益の調整額に含めた各セグメントに配賦できない金額は781,106千円であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

Ⅱ 当中間連結会計期間(自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	中間連結損益 計算書計上額 (注) 2
	商品事業	店舗事業	その他 (本社ビルの賃 貸等) 事業	計		
売上高						
顧客との契約から生 じる収益	3,507,947	2,413,869	257	5,922,074	—	5,922,074
その他の収益	—	—	88,813	88,813	—	88,813
(1) 外部顧客への売上高	3,507,947	2,413,869	89,070	6,010,887	—	6,010,887
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	3,507,947	2,413,869	89,070	6,010,887	—	6,010,887
セグメント利益	787,066	46,206	33,920	867,193	△799,793	67,399

(注) 1 セグメント利益の調整額に含めた各セグメントに配賦できない金額は799,793千円であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「商品事業」において、固定資産の減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当中間連結会計期間においては166,853千円であります。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。